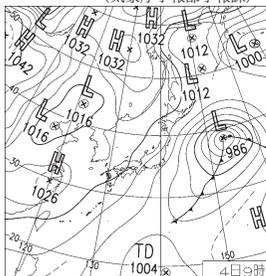


日々の天気図

— No. 95

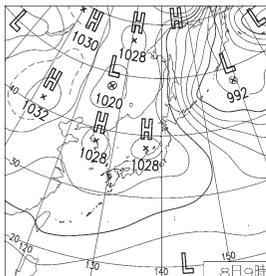
2009年12月

- 5日～7日、低気圧により北海道えりも岬35.8m/sの最大瞬間風速
- 18日～19日、冬型の気圧配置により福島県只見88cmの日降雪量
- 30日～31日、低気圧により北海道えりも岬34.5m/sの最大瞬間風速、岐阜県飛騨市河合82cm、群馬県みなかみ町藤原74cmの日降雪量
(気象庁予報部予報課)



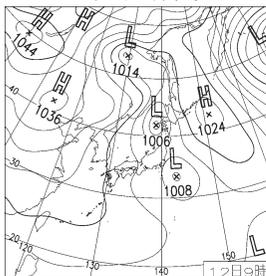
4日(金)北海道 冷える

北陸と北日本の日本海側の一部で雪や雨の他は、概ね晴れや曇り。北海道では、一部を除いて真冬日。北海道幌加内町朱鞠内で-20.7℃。西～東日本の最高気温は11月並で暖か。



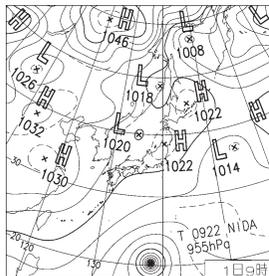
8日(火)冬晴れ

日本海から進んできた高気圧に覆われて北日本の一部で雪が降った他は全国的に晴れ。このため放射冷却で冷え込み、長野県南牧村野辺山では-11℃まで下がり1月中旬並。



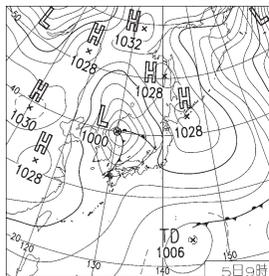
12日(土)北日本 荒れる

発達中の低気圧が北海道を通過したため北日本を中心に強風、高波。北海道では大雨、内陸では大雪。北海道白老町森野で12月としては観測史上1位となる日降水量125mm。



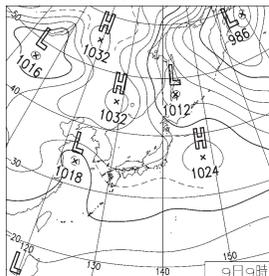
1日(火)沖縄～小笠原で高波

西～北日本の日本海側の所々で雨や雪。その他は概ね晴れ。台風第22号からのうねりの影響で沖縄～小笠原は波の高い状態が続く。室蘭では平年より24日遅れで初霜を観測。



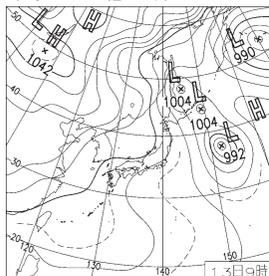
5日(土)東～北日本 荒れた天気

寒気を伴い発達した低気圧が日本海を北東進。午前中は近畿、午後から東日本で雨や雷雨。夜には北日本で暴風や高波を伴った雨や雪。北海道苫小牧で最大瞬間風速30.5m/s。



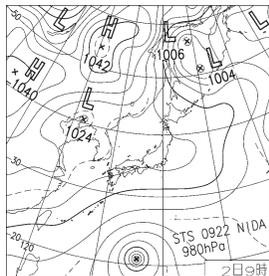
9日(水)西日本から下り坂

北日本の日本海側で午前中雪や雨、九州は午後から雨、南西諸島は概ね晴れ。その他は曇り、一部で晴れ間も。九州、関東では最高気温は12月下旬並。その他は11月並。



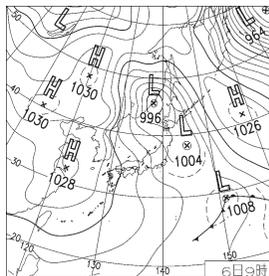
13日(日)朝の冷え込み緩む

北日本を中心に冬型の気圧配置が続き、先島諸島～北陸や東北の日本海側で曇りや雨。北海道の日本海側で雪、太平洋側は概ね晴れ。最低気温は全国的に11月中～下旬並と暖か。



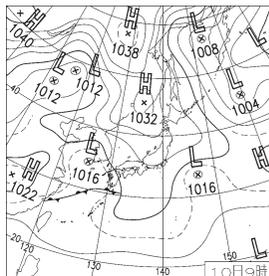
2日(水)穏やかな冬晴れ

北日本の一部で雨や雪があるもの、大陸からの高気圧に覆われ、全国的に概ね晴れ。各地で11月中旬頃の暖かさ。台風第22号は衰弱しながら日本の南海上を西へ進む。



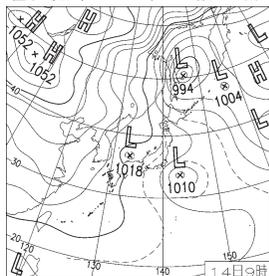
6日(日)発達した低気圧

北陸～北日本の日本海側は大しけて雷を伴った雨や雪。西～東日本の太平洋側では概ね晴れ。北海道千歳市支笏湖畔で32mm/1hの雨。東京のイロハカエデ落葉。



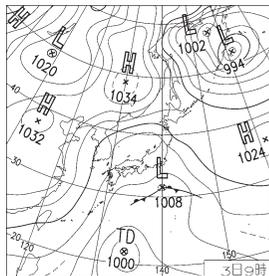
10日(木)天気 東西を二分

東シナ海の前線や低気圧の影響で、九州は未明から雨。降水域は徐々に西日本全域に拡大。一方、東～北日本は日中広範囲で晴れ。鹿児島県南種子町上中で49mm/1hの激しい雨。



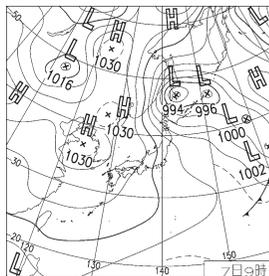
14日(月)北陸等遅い初雪、初氷

山陰～北日本日本海側では、雨や雪。関東は午前中曇り、先島諸島は雨や曇り。その他は概ね晴れ。遅れていた初雪や初氷の便りが北陸、関東、福島から届く。平年比2～3週間遅い。



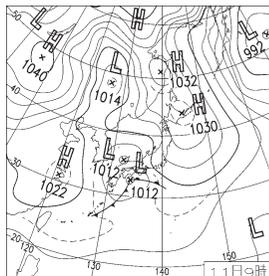
3日(木)一転、寒い雨の日

日本の南海上の低気圧は、北東へ進む。このため北海道では雪、その他の地方では雨。下関で平年より40日早くツバキ開花。台風第22号は熱帯低気圧となる。



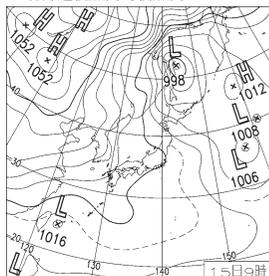
7日(月)冬型の気圧配置

発達した低気圧がサハリンを通過してオホーツク海に達したため、北日本を中心に西風が強く、日本海側で雨や雪。西日本の各地で初霜、初氷を観測。仙台でも遅い初雪。



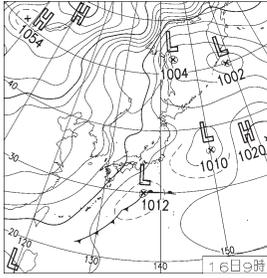
11日(金)二つ玉低気圧

低気圧が日本海と日本の南岸を進み九州～東北の広い範囲で雨。徳島県美波町日和佐で66mm/1hの非常に激しい雨。北海道は晴れて最低気温が北海道幌加内町幌加内で-22.6℃。

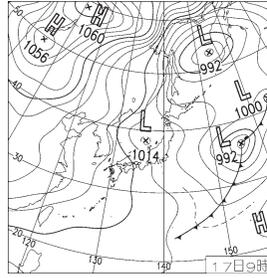


15日(火)北日本で本格的な雪

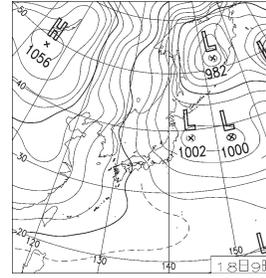
強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本日本海側中心に雪。東北でもこの冬初めてのまとまった雪となり、秋田県湯沢で日降雪量35cm。北海道は全地点で真冬日。千葉市で初霜。



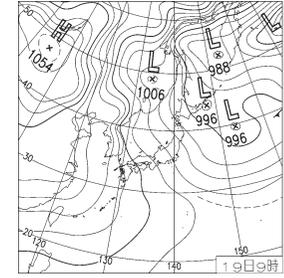
16日(水)強い寒気南下
日本列島には強い寒気が流れ込み、西～北日本の日本海側で雨や雪、東北では大雪の所も。松江、鳥取、福井で初雪。北海道占冠で最低気温-24℃。桜島で初冠雪。



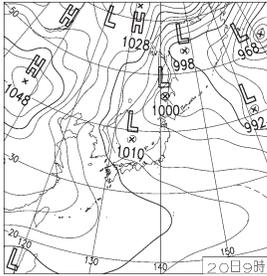
17日(木)冬型気圧配置続く
強い寒気が引き続き日本上空に流れ込み、西～北日本の日本海側で雨や雪が続く。佐賀、福岡、下関、山口、広島、岡山、奈良、宇都宮で初雪。北海道芽室で最低気温-25℃。



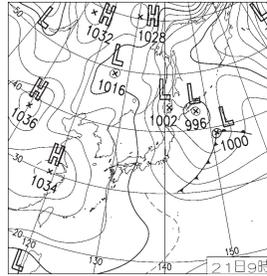
18日(金)日本海側や山地で大雪
強い寒気が南下し、日本海側や内陸の山地で大雪となった。福島県只見で日降雪量88cmを観測。太平洋側は晴れて、東京は最小湿度12%と空気が乾燥。前橋で初雪。



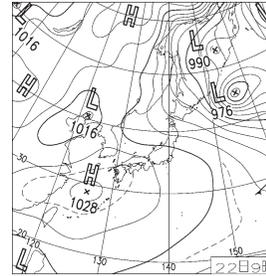
19日(土)筋状雲 太平洋側まで
寒気の吹き出しに伴う筋状雲が太平洋側まで。鹿児島、名古屋などで初雪。最高気温は全国的に平年より低く、北海道の一部で1月中旬並の他は最も寒い時期を下回る気温。



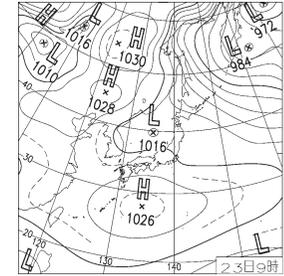
20日(日)日本海側の降雪続く
連日の大雪のピークは過ぎたが、西～北日本の日本海側中心に降雪が続く。夜には北日本を低気圧が通過し強風や高波。晴れた関東の最低気温は真冬並。大阪で初雪。



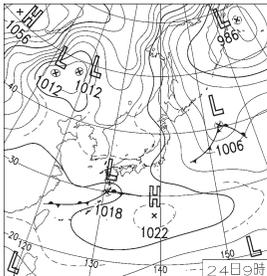
21日(月)北海道で暴風雪
千島近海の低気圧が発達し北海道で暴風雪や高波。西～北日本の日本海側で雪や雨が続き、北陸や東北は大雪。太平洋側は晴れて空気が乾燥した状態が続く。神戸、京都で初雪。



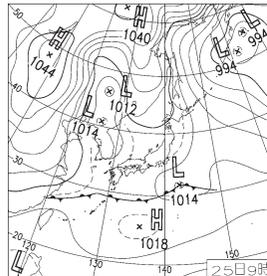
22日(火)冷え込み厳しい冬至
大陸から高気圧が移動してきたため冬型の気圧配置は西から緩む。西～東日本では朝方、厳しく冷え込む。鹿児島、高松などで初霜、初氷。北日本の日本海側では雨や雪が続く。



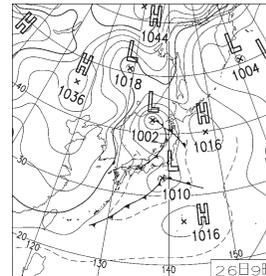
23日(水)九州は日中 気温上昇
低気圧が北日本を通過、日本海側は曇りや雨や雪。太平洋側は概ね晴れたが、午後は関東を除き曇った。九州の最高気温は平年より3～5℃高く1月中旬～11月下旬並。



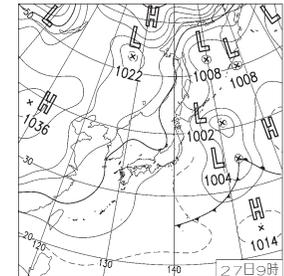
24日(木)穏やかなイブ
午前中、北陸や北日本日本海側は雪や雨。南西諸島や九州南部は低気圧の影響で雨や曇り。その他は日中概ね晴れて最高気温は平年より2～3℃高い11月下旬～12月中旬並。



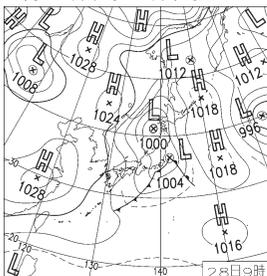
25日(金)沖縄で激しい雨
日中、九州を除く西～北日本で晴れ。夕方以降西から次第に雨雲広がる。前線に近い南西諸島は雨で、沖縄県波嘉敷で66.5mm/1h。北海道の最低気温は平年より5～10℃低い。



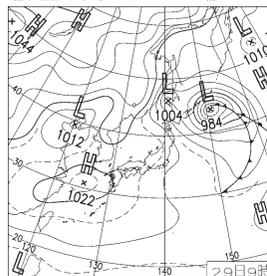
26日(土)西～東日本で黄砂
低気圧が発達し、東北の日本海側で暴風や高波。北海道で大雪。西日本～東北の日本海側で雷を伴った雨や雪。西～東日本で12月としては1993年以後の黄砂を観測。



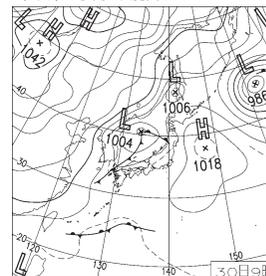
27日(日)早い天気の変化
上空の寒気が抜け北海道の雪も弱まり、北陸、東北の日本海側の雪や雨も昼には止む。西日本や東日本太平洋側は概ね晴れたが、低気圧が日本海に発生し、西日本から天気下り坂。



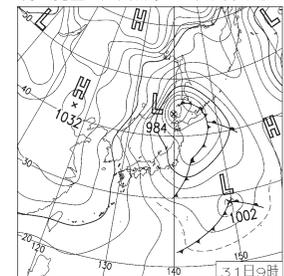
28日(月)北日本で暴風雪
低気圧が日本海と太平洋沿岸を発達しながら北上。西～東日本の日本海側と北日本で風が強まり、雨や雪も伴って、夜には北日本の一部で暴風雪。



29日(火)荒れた天気明け方まで
北日本では一時的に冬型が強まったが、北海道の大雪や強風は午前中までに収まる。北陸や北日本日本海側では雪や雨。その他は概ね晴れたが、関東は午前中曇り。



30日(水)前線通過
日本海の低気圧からのびる前線が本州を通過し、所々で雨や雷雨。その後冬型の気圧配置となり、西～北日本の日本海側は雨や雪。沿岸部は強風や高波。静岡県御前崎で初霜。

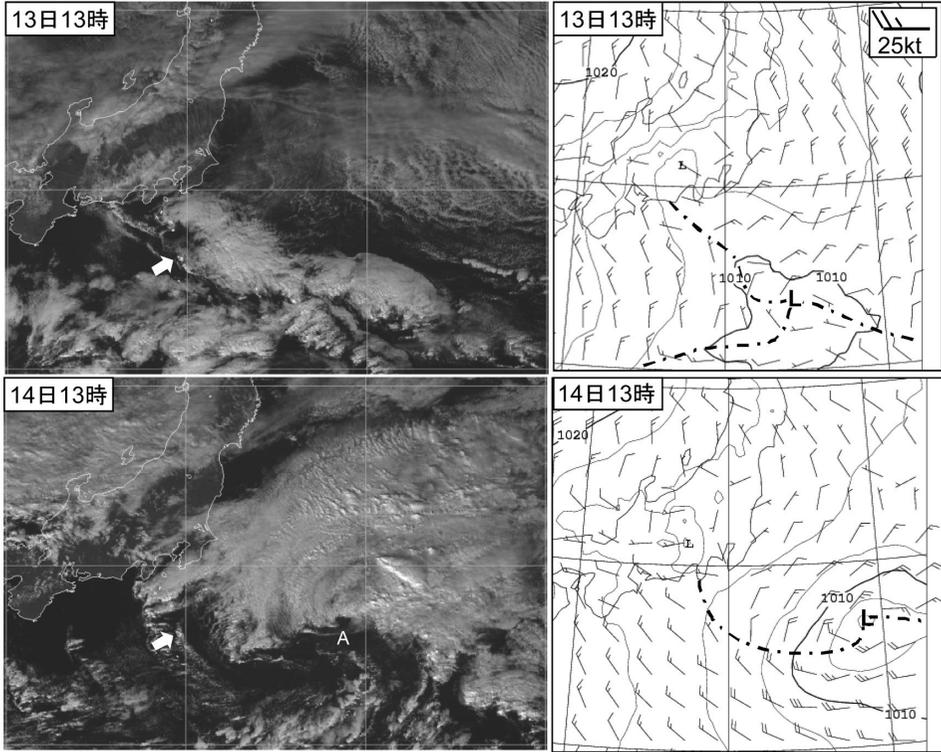


31日(木)大荒れの大晦日
発達した低気圧が北海道を通過し、冬型の気圧配置。西～北日本の日本海側で暴風、高波、大雪の大荒れ。太平洋側では晴れて空気の乾燥した状態続く。静岡、銚子、水戸で初雪。



今月のひまわり画像—2009年12月

関東沖のシアーライン上で発達した低気圧



第1図 左上は2009年12月13日13時（日本時間）の可視画像，左下は14日13時の同画像で，矢印の先は八丈島．右上は13日13時のMSM地上予想図（初期時刻：13日12時），右下は14日13時の同図（初期時刻：14日12時）で，等圧線は2hPa毎，風はkt（=0.51m/s），一点鎖線はシアーライン．

西高東低の冬型の気圧配置の場合，関東南部では晴天が続くことが多いが，沿岸部を中心に時々天気かぐずつくことがある．代表的な現象の一つが東海沖から伊豆諸島付近にかけて発生するシアーラインに伴う下層雲域の広がり，シアーラインの発生やその後の動向が予報官を悩ませることが多い．

第1図の左上は13日13時（日本時間）の可視画像で，遠州灘から八丈島の南東海上にかけて，ロープ状の雲列があり，その北東側の関東南部から関東の南海上には，所々晴天域があるものの下層雲域が広がっている．同時刻の気象庁メソ数値予報モデル（MSM）の地上天気図（同図の右上）を見ると，可視画像の雲列は関東地方からの北東風と東海地方からの北西風により形成されたシアーラインに対応している．また，

八丈島の南東海上には低気圧（図中のL）も表現されている．

シアーライン上に発生した擾乱の北側の雲域は，上空の気圧の谷の接近とともに厚みを増しながら拡大し，13日夜から14日朝にかけて，房総半島を中心に降水をもたらした．

24時間後の14日13時の可視画像（同図の左下）を見ると，シアーラインに発生した擾乱はフック状（図中A）の構造へと変化していることがわかる．擾乱の中心気圧も次第に深まり（同図の右下），やがて関東の東海上で海上強風警報（海上で最大風速34kt以上48kt未満）の対象となる低気圧にまで発達していった．

（気象庁総務部航空気象管理官付 原 基）